

2020年10月27日

ファスニングジャーナル(4面)に掲載されました



日東精工

地域経済牽引事業承認

異種金属接合技術を評価

日東精工(株)(材木正己社長)では、地域経済活性化に貢献する事業計画支援の取り組みである「地域経済牽引事業」に、異種金属接合技術「AKKROSE」及び「AKKROSE HYBRID」関連事業が本年8月20日付で承認された。

同社は1938年に地域の産業振興と雇用創出を目的に創業。現在その精神を引き継ぎ創業の地綾部に本社を置き、経済産業省近畿経済産業局からは地域の取引関係の中核を担う「コネクターハブ企業」としても評価されている。

今回、異種金属接合技術のAKKROSE及びAKKROSE HYBRIDの事業展開計画が、京都府中丹地域(綾部市、

福知山市、舞鶴市)における成長戦略に基づく地域経済への貢献に期待できるものとの評価を受け、京都府から地域経済牽引事業に承認された。事業実施期間は2020年10月～2024年12月。

異種金属接合技術「AKKROSE」及び「AKKROSE HYBRID」の概要

近年、自動車業界を中心に軽量化や高強度化、低コスト化などを企図し、マルチマテリアルの流れが強まり、より高度な異種金属接合技術が求められている。

そのような中で、同社が長年工業用ファスナー(ねじ)事業で培ってきた冷間圧造技術を活かして2018年に開発した

異種金属接合技術AKKROSEは、従来の接合法とは一線を画す新技術であり、強度が優れているだけでなく素材形状調整で複雑な接合形状の実現も可能。

また、AKKROSEをさらに進化させた「AKKROSE HYBRID」は、AKKROSEで接合された部品を接合材料に適した条件で熱処理を加えることにより、接

合界面における原子の相互拡散を生じさせ、接合界面の密着性を原子レベルにまで向上する金属接合技術。二つの接合方法を併せて行うことで接合はより強固となり、さらに安定性が得られる。

同事業計画は主に電気自動車に使用される車載用リチウムイオン電池向けの受注拡大を目指すものであるが、さらにはリチウムイオン電池以外の部品展開にも取り組むものとしている。

◇ 地域経済牽引事業とは地域未来投資促進法に基づき経済産業省が主導する、地域の特性を活かした経済活性化を目的とする取り組み。各地域において基本計画が策定されており、同社は中丹地域の計画における「中丹地域の金属製品製造業、食料品製造業等の集積を活用した成長ものづくり分野」の成長戦略に基づき当該事業を申請し京都府より承認された。